

正しい夢の持ち方

福岡高等学校 二年 小笠原 美紀

近年、日本の社会は少子高齢化が進み人口が減少している。その喪失感を埋めるべく、政府は「生きがい」をテーマに国民一人ひとりが輝ける社会を目指した取り組みをしている。その影響もあり夢を持って生きることが素晴らしいという無意識の価値観が私たち日本人に植え付けられ、夢を持たない者が生きづらい社会となってしまった。そのため私たち学生も早く将来の夢を見つけなくてはいけないという焦燥に駆られている。それでは、夢はどう持つべきなのであろうか。

多くの人は、夢によって希望が持つことができ、毎日が楽しくなるだろうと想像するはずだ。しかし夢とはそんな簡単に追い求められるものではなく、漠然とした夢を追う時間はとてつもなくつらい。

そこで私は、夢という形而上のものではなく、目標という形而下にあるものを持つべきだと考える。私は剣道部に所属している。私たちは恩師に夢より現実的な目標を持つように言われてきた。そして私たちの先輩は、その教えの通りに小さな目標を着実に乗り越え、今年の夏インターハイに出場し活躍した。インターハイの会場で先輩たちの堂々とした試合を見た瞬間、空想的な夢ではなく、現実的な目標をしっかりと持つことの重要性に気が付いた。自分の意志で目標を立て、無我夢中に稽古に励んだ先輩たちの先には夢のような舞台が待っていたのだ。夢は意図的に持つとうとするものではなく、努力の果てに後からついてくるものである。

現在、日本ではフリーターが急激に増えている。フリーターは基本的に三種類に分けることができ、全体の三割を占めているのが「夢追い型」である。夢追い型に当てはまる人の中には、夢の持ち方を間違っている人もいるはずだ。例えば、「医者になりたい」というピンポイントの夢を持つ。しかし、これでは自分の可能性を狭めてしまっているのだ。もしも、途中で夢が変わってしまったらピンポイントの夢しか持っていない人は、医者が当初の夢だからといって偽りの夢を追い続け、歯の歯が欠けるようにやる気も失われていき夢に破れてしまうだろう。しかし「人を助けられる仕事をしたい」という大きな目標を持っている人なら、自分の気持ちの変化に対応することが出来る。

私の目標は「人に安らぎを与えられる人になること」である。そしてより明確な目標ができる大きな転機が訪れた。それは祖母が突然私のことを忘れてしまったことだ。脳の病気があったのだ。その時の悲しみが癒えることはなかった。そのとき、私以外にもこのような思いをしている人がたくさんいるだろうと思ひ、患者さんの家族にも安らぎをあたえる看護師になろうと決意した。もしも、私が目標ではなく形而上の夢を持っていたらこのように決意することはなかった。

これらのことから、夢は目標を持ち努力した先にあるもので、意図的に夢を持つとうとせず柔軟な心を持つべきだ。正しい夢の持ち方とは、夢を持たないことである。